

平成 27 年度 第1回 屋代高等学校・附属中学校 学校評議員会 記録

日 時： 平成 27 年 8 月 5 日(水) 10:00～11:40

場 所： 本校会議室

出席者： 学校評議員 8 名

学校職員 11 名 (学校長, 教頭, 副校長, 高校教務主任, 中学教務主任, キャリア教育係,
学習指導研究委員長, 生徒指導係, 生徒会係主任, 理数科委員長, フロンティア委員)

司 会： 北島教頭

1 開会 学校長より (学校長)

2 自己紹介

3 学校からの説明 各担当より本校の課題について

(1) 附属中学校について (副校長)

・生徒の特徴 ・目指す生徒像の育成 (教育活動の特色)

(2) 進路および学習の状況と課題について (キャリア教育係)

・今年度高3生の進路希望状況 ・高1生の状況等

(3) 生徒指導全般について (生徒指導係)

・交通事故等

(4) 第Ⅲ期5年次SSHについて (理数科主任)

・今年度の取組みとⅣ期申請に向けて

(5) 入試選抜, 広報関係について (教頭)

・平成27年度入試の志願状況 ・平成27年度授業公開, 体験入学

(6) 学校評価について (教務主任)

・平成27年度重点目標と学校関係者評価

4 質疑および提言

- ・附属中3年生の中だるみの話も出たが、区切りとして卒業研究・卒業制作などは行われないのか。
⇒一人一研究を行っている。3月の発表に向けてまとめていく。10月に修学旅行があり、3月には希望者による海外語学研修にも行く。そうした中で区切りを意識させる。
- ・研究なら論文集というか紀要をぜひ作ってほしい。一生の宝になる。ところで、中学受検者の男女比を見ると、26年までは同じか男子が多かったのに、27年は女子が多い。何か分析は？全県的な傾向か？
⇒入学者は県により男子40名・女子40名と決められているので、入学後には男女同数となる。
受検者の男女比については、特に分析しておらず、原因は分からない。
- ・本校附属中を意識して、近隣小学校の進学や学習の意識が上がっている。良い効果である。
高1生の校外模試(スタディーサポート)の結果から、中高一貫生は国語の力があるということだった。
うちの塾にきている子に定期考査の様子を聞くと、ものすごい量の問題や漢字が出題されている。
確かに力はつくだろうから良いのだが、そういった量ばかりではなく、もう少し余裕を持ち、落ちついて勉強したほうが良いとも思う。
- ・小学校6年生の段階で自分が文系か理系かを決めるのは無理だろう。
⇒附属中には理数系を勉強したいと入学してくる子が多いが、一貫生は普通科に進学する。

⇒理数科では、入学して途中で文系を選ぶ者が例年2〜3人ほどいる。今年度の理数科では文転者はいない。難関大学の文系学部を受験するには、地歴公民科目の学習において厳しい状況がある。

かつての理数科の生徒で難関大学の法学部を志望する大変優秀な生徒がいたが、やはり難しかった。

⇒途中まで理系として勉強してきたなら、「数学のできる文系」として逆に有利なこともある。

⇒理数科では、SSH の内容に魅力に感じて入学してくる、「理科、数学が好き」という子が多く、高校受験段階で、自分は理系と決めている子がほとんどである。

- ・大学の工学部に「これは文系だな」と思われる子がいる。この先どうなっていくか心配になる。数学ができるから理系、と決めつけるのはどうかと思う。
- ・SSH について、IV期申請に向けて、とにかく実績を示すことが必要。将来的には、予算が無いからできないというのではなく、できる範囲でやることも大事である。
- ・生徒指導について、大学などでも外部者が入ってきてバイクや靴を盗んでリサイクル業者に売るようなことが起こっている。高校でも、そういう人間がいることを意識すべきである。
高校の先生が中学生を、中学校の先生が高校生をというように相互乗り入れで教えるのは、時間割作成が大変だろうが、中学で学習につまずいた高校生には良いことである。本校のアピールポイントにすべきと考える。

(2) 附属中学校・屋代高校の今後の在り方について

- ・一貫生は高校に入ると普通科。今後、どう伸ばしていくかが問題だ。
- ・全人教育しながら成果を上げていることに敬意を表したい。先生方は本当に一生懸命にやっていると。学習のみならずクラブ活動も。インターハイに出る出ないではなく、とにかく頑張っていることが素晴らしい。県内の高校の進学状況は他県と比べて悪い。その中で本校の国公立大合格者数は、生徒数からすれば県内トップ。確かに難関大は少ないが、狭い地域で生徒を集めていることを考えればしかたないだろう。発言機会などあれば、私からもアピールしていきたい。
- ・通常の教育活動に加えて SSH の活動は大変だろうが、続けていただきたい。実は、近所の子が他高校へ進学して有名大学に入った。地元の子は地元の高校に行ってほしいと思う。何か策はないものか。
- ・鳩祭の前に本校生が挨拶回りに来ると、相変わらずいい子達だなと思う。長野県の大学合格実績が良くないのは確かである。大学に行っているわが子に聞くと、他県の出身者はとても勉強してきたらしい。本校の SSH の取組みを経験していた我が子は、実習が好きというが、試験前などはものすごく勉強しなくてはならず大変だとか。高校までのんびりやってきて、大学でもしっかり学べるのであれば良いと思う。例えば医学部医学科に進学する者は、物理と化学を高校で勉強して、生物をやっていない。大学でひたすら暗記を要求されている。
⇒現在の入試科目をみると、医学科進学者は物理・化学で受験するのが普通である。人体を扱うのに生物学を学ばなくていいのか、とは思わうが。
- ・私はむしろ、物理・化学でしっかり理論を学んでおいてほしい。特に物理を大学で取り返すのは大変だ。受験システムの弊害かと思うが、輪切りにされた似たような人間ばかりがいる状態だと、新しいアイデアも出てこない。高校教育改革、大学入試改革に期待している。
- ・屋代高校前駅に本校の掲示板がある。花壇も作られている。地域とのつながりを大事にしている学校だなと感じる。中体連の大会での附属中学生の活躍を見るに、学習との両立ができていてすばらしい。

ハンドボールの盛んなこの地域をさらに盛り上げて、高校に入っても続けていってほしい。私立の中高一貫校が増えて、子どもたちにとって選択肢が増えたのは良いことだと思う。

- ・どうしても長野高校に生徒は流出する。しかし、屋代高校の良さをもっとアピールしてもいいはず。
- ・長野高校に比べると、本校はおとなしい控えめな生徒。先生方も。もっと強く、「県下の教育」だと主張してほしい。

- ・信濃毎日新聞のコラムの投書に、本校卒の富山大学医学部の学生が世界へ向けて活躍の場を広げる話題が載っていた。グローバルに活躍している先輩も大勢いる。今後、一貫生と選抜生が混じり合い、いい意味で相乗効果をもたらすことを期待している。

5 閉会 学校長より(御礼)

全人教育という言葉通り、本校では文武両道、キャリア教育室では“三兎を追う”、という言葉掲げて教育活動を行っている。社会に出れば文系・理系という線引きで決められるものではない。

リベラルアーツともいうべき全ての教科、科目を大切に作る生徒を育てたい。その意味で、全ての基本をしっかりと身に付けるために国公立大学を目指すのだと思う。

SSHの講演会は全校で聴講する。一人一研究も全員が取り組み、内容も理科数学に限らない。

さらに理数科では課題研究で課題発見と探究の力を育む。こうしたことは高校教育・大学入試一体改革の骨子にもつながると思っている。SSHの事業では「科学に親しむ教室」「ウニ発生の観察」など地域の小学生への普及を図っている。棚田での体験学習もある。地域とのつながりを大切にして、地域を背負って立つ人間を育てたい。

中高乗り入れの教科指導は、教員自身の力量を上げるにも良いし、生徒の刺激になる。保護者も期待している。高い知性、豊かな創造性、健全な心身を中学生には育てていきたい。先日、本校HPをリニューアルし、ますます外部発信に努めるので、ご覧になって、またご意見をいただきたい。

本日はありがとうございました。